

放射線に関する Q & A

放射線は目に見えません。しかし正しく認識し、対処することで過剰な心配や、無用な被ばくを避けることができます。放射能対策室では定期的に、この Q & A を連載していきます。

監修＝相馬市健康対策
専門部会委員、東京大
学医科学研究所
坪倉正治
作成＝放射能対策室



Q 家庭菜園で採れた野菜は安全でしょうか？

A 野菜の成長にはカリウムという栄養素が必要ですが、今回の事故で原発から放出された放射性物質のセシウムは、カリウムとその性質がよく似ています。そのため、野菜がカリウムと間違えて土の中のセシウムを吸収してしまい、野菜の中からセシウムが検出されてしまいます。これを防ぐには、土の中にカリウムが十分に含まれていることが重要です。方法としては、カリウムを含んだ肥料をまくことで土の中にカリウムが補充され、野菜がセシウムを間違えて吸収することを防ぐことができます。また、セシウムは土と強く結合する性質があるため、土から野菜に移動しにくいことも分かっています。

市では、家庭の中で食べる食品の放射性物質検査を無料で行っています。今年の4月から6月までに68件の野菜を測定しましたが、食品の基準値（食品1kgあたり、セシウム134とセシウム137の合計が100ベクレル）を超えたものはありませんでした（出荷制限品目を除く）。家庭菜園の野菜を測定していますので、採れた野菜について気になる場合はいつでも市役所や各地区公民館、各検査所にお申し込みください。

H27.4～6 測定結果（出荷制限品目を除く）

種類	測定件数	検出件数	基準値超の件数
野菜	68	2	0
果実	70	5	0
魚	13	1	0
山菜・キノコ類	102	25	3
新米・古米	1	0	0
その他	50	5	1
合計	304	38	4

Q 食品の放射性物質検査結果にある「不検出」とはどういう意味ですか？

A 測定する食品中の放射性物質（セシウム）があまりにも少ないと、時間をかけても測定器で検出することができません。家庭の計量器でほこりの重さが測れないように、放射性物質検査の測定器には検出下限値といって、その測定器で調べることができる限界の値があります。食品の放射性物質検査に使用される測定器であれば、多くが食品1kgあたり10～20ベクレル程度です。

この値は測定器や測定する食品の種類、測定時間、周囲の環境（温度や湿度など）によって変化し、検出下限値未満の測定結果が「不検出」となります。

例として検出下限値が10ベクレルで測定結果が「不検出」の場合、測定した食品中にそれより少ない量の放射性物質が含まれている可能性があります。現在のところ、食品中の放射性物質が完全に含まれていないことを確認する方法はありません。

しかしながら、測定結果で放射性物質が検出された食品を食べたとしても、健康に影響を考えるレベルにはならないように食品の基準値は考えられています。実際に私たちと県外の方の内部被ばくの状況は、大差がないことがわかっています。

出典：▽データでなっとく放射線 なすびのギモン「食品編」

●問い合わせ先 放射能対策室 ☎ 37-2270

自家消費野菜などの放射性物質測定結果 6月分

▽測定件数 測定件数 115件
（内訳…野菜 32件、果実 64件、魚 3件、山菜・きのこ類 8件、その他 8件）
▽基準値を超えた食品 0件
●相馬市で出荷制限などを受けている食品（7月8日現在）
▽クリ▽くさそてつ（こごみ）▽たけのこ▽ふきのとう（野生）▽ぜんまい▽たらの芽（野生）▽原木しいたけ（露地）▽原木なめこ（露地）▽野生きのこ▽こしあぶら▽うど（野生）▽牛（県の定める出荷・検査方針に基づくものを除く）
※最新の情報は、福島復興ステーションホームページ内の「農林水産物の緊急時環境放射線モニタリング結果【詳細】」でご確認ください。
<https://www.pref.fukushima.lg.jp/site/portal/non-keka.html>
◎これまでの食品の検査結果（相馬市ホームページ）
<http://www.city.soma.fukushima.jp/housyasen/index.html>
●問い合わせ先 放射能対策室（☎ 37-2270）